



ユネスコ会員綱領

心の中に平和の守りを固めよう
 すべての人間の尊厳を重んじよう
 教育・科学・文化の発展に努めよう
 民族間の疑惑と不信を除こう
 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

五十一年度事業計画を決定

魅力ある活動の展開を

新しい役員も決まる

広島ユネスコ協会は、このほど、昭和五十一年度の事業計画を決定しました。この事業計画は、さきに、当協会の永井会長が、本紙第二号において提案した昭和五十一年度へむけての基本方針にもとづいて策定されたもので、去る五月七日、中央図書館において開催された年次総会において承認されております

同会長は、財政基盤の確立、会員の増大、魅力ある活動の展開、広報・普及活動の充実、他団体との協力関係の樹立——を昭和五十一年度の協会発展のための方策として提案しましたがこれらは、今後の協会の行方に大きく影響する重要な事項だけに、事業計画立案にあたっては会員それぞれの地についた活動を前提としています。

今年度、とくに重点を置いた事業としては、一般市民に対する啓蒙のための事業、新しく発足した財団法人広島平和文化セ

ンターとの強力な提携のいのもとに行なう事業、広報活動充実のための機関紙発行事業などがあげられております。

事業計画及び、新役員はつきのとおりです。

昭和五十一年度事業計画

- ◇五十一年四月ユネスコ・パリ日本文化祭へ会員派遣◇同月日青ユ協西日本ブロックリーダー研修会へ会員派遣◇同月訪中青年の船・パリ日本文化祭参加者を囲む会◇同月英国を知る映画の夕◇六月第三十二回日本ユネスコ運動全国大会(和歌山)へ会員派遣◇同月上報告会◇同月英国を知る映画の夕◇七月国際資料展◇同ユネスコ講演会(竹本日本ユ協事務局長)◇八月原爆に関連した八ミリ映画展◇同三周年記念パーティ◇同広島平和文化センターとの合同シンポジウム◇九月国際交流団体との提携協力のた

めの会議◇同英国を知る映画の夕◇十月第一回世界青年ボランティア会議へ青年派遣(東京)◇同英国を知る映画の夕◇十一月第三回青年宿泊研修◇同ユネスコ音楽会◇同広島平和文化センターとの合同シンポジウム◇同英国を知る映画の夕◇十二月国際理解に関する研究協議会◇同英国を知る映画の夕◇五十二年一月新年パーティ◇同広島平和文化センターとの合同シンポジウム◇二月海外ボランティア体験者を囲む会◇同東南アジア留学生を囲む会◇三月中・高生のためのヨーロッパ移動講座へ会員派遣

昭和五十一年度役員

- ◇名誉会長 荒木武(広島市長)◇会長 永井滋郎(広島大学教授)◇副会長 松原博臣(広島県医師会常任理事)、尾尻隆之(広島市教委社会教育部長)、松岡盛人(青年部長)◇教育活

- 動担当常任理事 山崎克洋(広島市教委)、太鼓矢晋(広大付高)◇組織担当常任理事 石田正義(教育評論家)、藤本嘉一(福井建設企画室長)、古川浩司(芸備倉庫社長)◇文化担当常任理事 加藤朗一(広島女子高専校長)、新川貞之(学校安全会広島支部長)◇国際交流担当常任理事 深崎敏之(皆実高校)、小倉馨(広島市涉外課長)◇広報担当常任理事 高橋昭博(広島市広報課主幹)、古田碩永(広島市教委)◇理事 北川建次(広大助教授)、藤井千之助(広大教授)、斉藤清三(広島県教委社会教育部課長補佐)、信井正行(広島市教委学事課長)◇江川琢也(広島市教委社会体育課長)、滝口節夫(広島市青少年センター館長)、田中登志子(タナカ社長)、俣野仁一(俣野耳鼻科医院長)、増田昭二(第一学習社常務)、竹内良明(朝日生命広島支社長)、山根繁徳(安芸高校)、亀井明(中国放送)、深瀬文恵(青年部副部長)◇内山芳雄(同)◇監事 生塩公敬(広島県医師会常任理事)、水野文隆(広島市青少年センター)◇事務局長 末野忍(広島市立中央図書館資料奉仕課長)◇顧問 内海巖(広島市立中央図書館長)

この四月二十七日から十日間、パリのユネスコ本部を会場に、「日本文化祭」が開かれました。これは、ユネスコが新しい構想として加盟国を毎年一か国ずつ選んで脚光を浴びせようとするもので、その第一回目として白

紙上座談会

パリ・日本文化祭に出席して

羽の矢を立てられたのがわが日本です。

広島からも、当協会松原博臣副会長制作の「太陽の燃えるとき——ヒロシマ・アウシュヴィッツ」(カンヌアマチュア映画祭銀賞受賞) さきに当協会の例会でも紹介したヒロシマ国際アマチュア映画祭受賞作品「ふたりは

つち」(グランプリ)「巴峡に生きる」(中国放送賞)森永泰輔氏製作)「褐色の海」(中国新聞社賞)それに東京国際アマチュアコンクール受賞作「私の中のヒロシマ」の五本のアマチュア映画が出品され、会場を埋め尽くした多数の現地の人々に大きな感銘を与えました。

この催しに、当広島ユネスコ協会から亀井章(中国放送)、森永泰輔(県立日影館高校教諭)両氏が参加されましたので、現地での感銘や感想をお聞きしてみました。

ヒロシマに重苦しい雰囲気

出席者

森永 泰輔氏
(日影館高校教諭)

亀井 章氏
(中国放送事業部)

司会

永井 滋郎氏
(広島ユネスコ協会会長)

広島から五本の映画を出品

司会 パリにおける日本文化祭については、ユネスコ新聞その他の報道機関が報道しておりますので、会員の皆さんも一応の知識はおもちなのですが、もういちどご説明いただけませんか

亀井 ユネスコ創設三十周年を記念して、加盟国一三六か国の文化を毎年パリで紹介しようということになったわけです。日本は、その第一回目ということですが、私の解釈では、今回の日本文化祭は、いわば、日本の伝統芸能から今日の平和まで、というプログラムが組まれたのではないのでしょうか。

大まかにいって、アイヌのユーカーラ、竹田人形、文楽、茶道華道、武道、それから今回の大きな目玉商品になった長崎の南蛮渡来から原爆・平和までのパノラマ展、児童画展、日本画展さらに、地元パリの人が映画好きということから、とくに、映

画については、協会連盟も力を入れておりましたね。黒沢明の「生きものの記録」などの劇映画、「棟方志功の世界」・「わむの木」などの短編記録映画、そしてアマチュアの優秀作品などが上映されました。

司会 広島からは、このアマチュア映画に五本が出品されたそうですねですが、先日にも、日ユ協の竹本事務局長からも電話があり、広島からの作品も大きな反響があり感謝している、ということでしたが、製作者として参加された森永さん、いかがでしたか

森永 私としては、自分の作品が上映された喜びをもつと同時に、広島から出品された五本の映画が無事上映できたことに、ホッとした気持ちなんです。反響などは、言葉の不自由さも手伝って知る機会も少なかったのですが、たとえば「私の中のヒロシマ」はHow soonか、という質問を受けたりして、かなり関心をもちましたのではないかと思います。

また、茶道会場では、フランス美人から、現在もこのようなものが存在するのか、生活の中にはいつているのか、と聞かれるなど、日本の伝統文化に接して、かなり驚きの目をもっていただけないかと思えますね。

質的に評価したい日本文化祭司会 それでは、日本の文化祭に対して、パリっ子や外国人がどういう反応を示したか、ということについてはどうでしたでしょうか。

亀井 私たちは、途中から参加したために、全体の盛り上がりや流れについてはわからないんですが、端的にいえば、出品した五本の作品がどう受けとめられるか、ということが最大の関心事であったし、それを知ることが任務であったと思うんです。「ヒロシマ」に関する作品の上映中は、たいへん重苦しい



ヒロシマの映画を鑑賞するために会場入口に集まった人たち

必要な積極的相互理解の努力

司会 ヒロシマ、ナガサキに
いてはどうでしたか。とくに、
フランスなどもたびたび核実
験を行なっているんですが。

森永 さきほど亀井さんのおっ
しゃった「重苦しい雰囲気」が
何故でたか、ということですが
一応、今回の催しを見にこれら
たかたの期待なり感想は、異国
情緒を満喫するとか、伝統文化
の中から日本人のこころを温く
評価するということだったと思
うんですね。そうした中で、原
爆の問題が出ますと、たしかに
まじめにものを考えようとい



ユネス
コ青年部
の諸君と
おつき合

いが始まったのは、私が、青年
部が主催された昨年の「原爆講
座」へのアドバイスをし、同時
に微力ながら講師陣の一翼をに
なわせてもらってからのことだ
す。部長の松岡君、副部長の深
瀬さん、プロジェクトのチーフ
役今村君など、若い諸君と交流
したことは、私にとって大いに
得ることがあり、自身の人生勉
強にもなりました。
私は、かねがね、一人の被爆

姿勢があるだけに、当惑するこ
ろがあったのではないかと、と
思います。

司会 というとう？

森永 つまり、これは、日本の
代表部のかたに聞いた話しなん
ですが、たとえば、アイヌの物語
です。あの物語は、美しくも悲し
いものなんです。人種差別に
ついて、日本人がアイヌを差別
したので、それを日本人なりに
どう考え、国際的にどう発言し
ようとして出品したのか、とい
うことが問題になったようです
ヒロシマ、ナガサキにしても

者として、被爆者エゴを排し
もっと私自身の視野を広め、そ
して戦争体験・被爆体験のない
若い世代に積極的に働きかけ、
被爆者の体験をぜひ継承しても

ユネスコ青年部に期待する

高 橋 昭 博

らわなければならぬと思ひ、
これまでも私なりの活動を続け
てきました。それがさらに、ユ
ネスコ活動の中で、青年部諸君
のまさに自主的な発意によつて
継承運動が着実に進んでいるの

原爆という非常手段を使って非
戦國民を殺したのは確かだし、
ヒロシマ、ナガサキだけが史上
最初の被害をこうむったのだか
ら、言わんとすることはわかる
のだけれども、しかし、その問
題だけではないだろう、つまり

第二次大戦の挑発者であるとい
う立場、日本が他国の非戦國民
を多数ぎやく殺したという立場
である、という自らの問題とし
てどう結合づけ、国際的にどう
発言しようとして、今回、フラ
ンスに来たのか、ということが
あったらいいですね。これを
聞いたとき、私はがく然としま
したね。

ですから、私にとってはこんな
にうれしいことはありません。
いまや、原水爆禁止運動は、政
党と労組の特定のイデオロギー
に支配されてしまっています。

私も、長いあいだ被爆者として
原水禁運動に参加してきました
が、いまのイデオロギー支配に
よる混迷状態にはほとほとあき
れかえています。青年部諸君
の純粹な気持ちでとらえた原爆

やはり、彼らには彼らの生き
る問題があり、その中で原爆を
どうとらえるかということをお考
えているのではないのでしょうか
ね。そういうところから、さっ
きのような発言が出たのだと思
います。

司会 すると、ある意味では、
原爆、核、戦争、人種差別など
に対する日本人自身の考えや姿
勢が、まだ世界によく知られて
いない、ということが言えます
ね。われわれは、訴えようとし
るのだけれども、なかなか外国
のかたにわかってもらえないと
いうことはありますね。
そういう意味では、われわれ

と平和の問題が、青年部諸君の
個々の中で思想化され、市民的
な広がりまで発展するよう祈
らずにはおれません。昨年の
「原爆講座」をふまえて、こと
しは、さらに他の青年団体との
共催で、再び「原爆講座」が開
かれ、その輪はまた一歩広がり
ました。

「広島に住む青年が原爆を知
らないで平和は考えられない」
という青年部諸君——今後も
行動するユネスコ青年部——と
して、協会の先頭に立つて大い
に活動してほしいと思います。
(本会常務理事)

ユネスコ高校生訪中団に広島から3名
日本ユネスコ高校生友好訪中団(約20名)が、来る
7月23日から約2週間、上海をはじめ蘇州、無錫、抗
州、南京等を訪ね、同世代の若い人たちとの交流をは
かることになった。
この訪中団に広島からも谷川裕之(安芸高)、三浦
清子(広大附高)、小川一恵(広大附高)の3君が参
加する。大いなる成果を期待したいもの。

は、もっと積極的にヒロシマの
こと、日本のことを世界に訴え
て、理解してもらう必要がある
ということが残っているんでし
ょうね。今回の催しが、奇しく
もそういうことの反省の機会と
なったということですかね。
森永 これをきっかけにして、
わたしたち原爆という問題の中
に生きている者たちの生きざま
をできるだけ理解してもらえ
形で今後活動を展開していかな
ければならないと思います。
司会 どうもお疲れのところ、
大変有意義なお話し、ありがと
うございました。今後ともよろ
しくお願いします。

平和文化センターと初会合

事業の提携などを確認

五月十三日午後三十分から、財団法人広島平和文化センター佐々木常務理事、木山同事務局長以下職員と広島ユネスコ協会永井会長、松原副会長以下各専門部担当常任理事、青年部役員との初会合が開かれた。これは両者が「平和文化の推進」という共通の目標を掲げて活動している、互いに交流を深めようという目的をもつもの。

冒頭、永井会長から、当協会の五つの基本計画に沿った事業活動の紹介があり、続いて、木山事務局長から平和文化センターの事業活動の概要説明があった。その後、出席者それぞれの意見交換があり「将来、平和文化センターと共同してシンポジウムを開催したい」、「ユネスコ青年部への資料提供を積極的にお願いしたい」、「今後、ユネスコの大衆化、若返りをはかりたい」、「平和記念館を本来の活用目的に沿うよう修正したい」、「将来、平和文化センターが呼びかけ、文化団体連合会のようなものをつくってみたい」

山事務局長から平和文化センターの事業活動の概要説明があった。その後、出席者それぞれの意見交換があり「将来、平和文化センターと共同してシンポジウムを開催したい」、「ユネスコ青年部への資料提供を積極的にお願いしたい」、「今後、ユネスコの大衆化、若返りをはかりたい」、「平和記念館を本来の活用目的に沿うよう修正したい」、「将来、平和文化センターが呼びかけ、文化団体連合会のようなものをつくってみたい」

「外国人にはもつと広い意味で日本のよさ、広島県のよさを強調しなければならぬ」——などの意見、要望が出された。そして、当協会が、平和文化センター評議員会の一員に加わること、平和に関する論文・ポスターの募集の共催団体になること——が決まり、今後も随時両者の話し合いの場をもつことを確認しあつた。

初会合としては、大変意義ある話合いであつたと評価される。世界の中のヒロシマをテーマに論文・作文・ポスター募集

財団法人広島平和文化センター

④「熱い祈り」(宮崎一雄作品) 第五回シングルユニット友の会八ミリコンテスト最優秀作品賞

⑤「鳥は知っている」(中畝健雄作品) 第一回ヒロシマ国際アマチュア映画祭文部大臣賞

⑥「私の中のヒロシマ」(川本昭人作品) 第九回東京国際アマチュア映画コンクールNHK会長賞

⑦「三十一年度の証言」(広島エイト倶楽部合同作品) 新作

⑧「世界平和」を表現するもの。規格/論文 四百字詰原稿用紙二十枚以内/作文 小(小学) 同三枚以内(中・高) 同五枚以

8月4日 ヒロシマを記録する八ミリ映画の会

「私の中のヒロシマ」(川本昭人作品) 第九回東京国際アマチュア映画コンクールNHK会長賞

これは、原爆の恐ろしさ、平和の尊さを広く一般市民に改めて認識してもらうのがねらい。

日程とプログラムはつぎのとおり。

とき/八月四日(水) 午後六時

十八回カンヌ国際映画祭銀賞

同作品) ②「ヒロシマ」(松原博臣作品) 第九回パリ国際映画祭レポーター部門一位

③太陽の消える時「ヒロシマ」アウシュビッツ」(松原博臣作品) 第二

第九回東京国際アマチュア映画コンクールNHK会長賞

三十一年度の証言」(広島エイト倶楽部合同作品) 新作

「世界平和」を表現するもの。規格/論文 四百字詰原稿用紙二十枚以内/作文 小(小学) 同三枚以内(中・高) 同五枚以

内/ポスター 四つ切り画用紙に縦書き。水彩、クレヨン、はり絵、ソフトペンその他自由。送付先/財団法人広島平和文化センター(中島町平和記念館内)

青年部、原爆講座を開催

当協会青年部は、広島市青年連合会、広島市青年団体連絡会と共催で、七月一日から第二回原爆講座を開く。戦争体験を持たない若い世代に少しでも原爆の実態を知ってもらい、平和についてみんなで考えようという趣旨。とくに現在問題になっている原爆の問題をテーマにする。全六回。広く一般青年にも参加を呼びかけている。

日程とテーマはつぎのとおり

◇七月一日 胎内被爆の障害の実態(作家・文沢隆一) ◇同七日 ヒロシマ・原爆(広島市渉外課長・小倉馨) ◇同八日 原爆と報道(中国新聞記者・島津邦弘) ◇同十五日 石田訴訟のめざすもの(県被爆教師の会会長・石田明) ◇同二十二日 高

校生の原爆意識と平和教育(廿日市高校教諭・森下弘) ◇同二十九日 討論会「原爆を若者としてみよう」とらえるか

いずれも午後六時三十分から青少年センターで。